

< 事業所自己評価_様式例 >

【事業所概要】

法人名	有限会社ひまわり	事業所名	在宅ケアセンターひまわり
所在地	(〒861-0101) 熊本市北区植木町山本 874-2		

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 12 月 25 日	従業者等自己評価 実施人数	(18) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
				自己評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		①事業理念を理解し、それに基づいたサービスの提供に努める。 ②多職種間での報告・連絡・相談を徹底し、情報提供・情報共有が円滑に行える環境づくりを継続する。 ③スタッフ個々のライフステージに応じた自己啓発により、質の高いサービス提供に反映させる。 ④防災訓練など緊急時マニュアルや緊急連絡網の周知を図る。	①毎月の事業所全体の研修資料に理念を載せ、目にする機会を増やす。 ②申し送りノートを活用した情報共有の環境づくりの継続。 ③目標シートの活用 ④定期的な防災訓練の実施。	①理念の理解の確認はできていない。 ②申し送りノートの利用は定着している。 ③自己啓発への支援は不足していると感じる。 ④緊急時マニュアルの周知は不十分である。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	①利用者の個別性に対応した、柔軟性のあるサービス提供を行う。 ②利用者の状況(身体的・社会的変化など)をアセスメントし、家族や医療機関と連携し、対応方針を検討する。具体的なケア方法は多職種のスタッフによって立案し、実行していく。 ③多職種の専門性を活かした、質の高いサービスの提供を実践するために、学習の機会を支援する。	・多職種間の情報共有と連携に努める。 ・目標シートに具体的な学習の希望を記載、研修費が発生する場合は、施設からの補助を申請する。	・ケア方法などの共有は向上してきた。 ・コロナ禍の影響があり、直接的な研修会参加はできなかった。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	①医療機関や事業所、地域の支援者などとの顔の見える関係の構築と情報共有に努める。	対面が困難でも、連絡は密に取り、情報の洩れを防ぐ。	可能な限り、対面での情報共有に努めた。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	①スタッフ個々が、地域において果たすべき役割を認識し、実践できるように努める。	実践を通じて、看多機の機能を地域に伝えていく。	訪問看護の機能など、少しずつ認知されてきた実感はある。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		①在宅生活を安心して継続するために、医療ニーズに対応し、最期まで穏やかな生活をおくるための支援を行う。	多職種の、業務分担や連携を通じて質の高いケアを提供する。	ご家族への説明や情報共有に努めた。

※「進捗評価(運営推進会議における意見等)」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画（案）	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	①実践をつみながら理念の理解を深める。 ②多職種間での報告・連絡・相談を徹底し、情報提供・情報共有が円滑に行える環境づくりを継続する。 ③スタッフ個々のライフステージに応じた自己啓発を勧める。 ④防災訓練など緊急時マニュアルや緊急連絡網の周知を図る。	事業所の理念は見える化されている。職員一人一人が認識するような取り組みは、必要と感じられたところは理解を深めるに当たり不可欠ではないか。 事業所の理念が日常的に目につくような工夫や、情報共有の環境作りの継続、定期的な防災訓練が実施されている。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27) 2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31) 3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	①利用者の個別性に対応した、柔軟性のあるサービス提供を行う。 ②利用者の状況を把握し、対応方針を検討する。ケア方法は多職種のスタッフによって立案し、実行していく。 ③多職種の専門性を活かした、サービスに繋げるために、学習の機会を支援する。 ①医療機関や事業所、地域の支援者などとの顔の見える関係の構築と情報共有に努める。 ①スタッフ個々が、地域の中での役割の理解を深め、実践できるように努める。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	①在宅生活を安心して継続するために、最期まで穏やかな生活をおくるための支援を行う。	多職種の業務分担や連携を通じて質の高いケアを提供している。

※「改善計画（案）」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	0	9	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を中心に、看多機の特徴を踏まえて、ドーナツ型に多職種、家族が常時話し合いニーズ対応に努められていると思われる。 ・看護小規模多機能ならではの在宅支援、きめ細やかなサービスを引き続きお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・個々の機能維持ができる様、スタッフ間で情報の共有はできている ・利用者の在宅への支援には関わっていない ・自宅生活されている利用者の健康、筋力の維持に努めている ・本人の状況に応じて残存機能を活かして支援している ・利用者を取り巻く多職種や家族が、常に話し合い、利用者が求めるニーズに対応できるように努めた ・ご利用者や家族に満足して頂ける様に考えながら対応しているが、充分とはいえない ・看取りへの取り組みや家族の負担の軽減に努めている ・退院後、自宅での生活不安がある利用者に対し、在宅での生活指導や支援、病院との連携を図ること ・看多機の特徴をふまえて、理想とするサービスに即した理念がある 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	3	8	3	0	<p>・看護と介護の両立、泊り、通い、訪問などの多様な利用方法を検討されてその利用者に適したサービス提供に努力をされていると思われる。</p> <p>・質の良いサービス提供には、良好な職場環境が影響しますので、理念の実践について職員間での共通認識が必須と感じます。</p>	<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
	<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有 ・内容は理解しているが、十分に実践しているわけではない ・笑顔が多く出るように支援している ・職員同士で情報の交換は常に行っている ・理念は知っているが、実践においては充分とはいえない ・看護と介護の両立、特に看護については力を入れている ・泊まり、通い、訪問など多様な利用方法を検討・実施しその利用者に最も適したサービスを提供する努力をしている ・ひまわりの理念が浸透するように施設内に掲示してあるが、理解できているかはまだ不十分。一人一人が意識するような取り組みが必要だった ・理解はしているが、日常の業務中に意識はあまりしていない 						

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	2	4	5	2	<p>・毎年、個人の目標設定が行われている。それに則った評価や面談は必要ではないか。</p> <p>・通常業務と並行は大変かとは思いますが人材育成の努力は大事だと考えます。</p>	<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成計画は特に作っていない ・育成計画的な事はその都度やっているが、作成などはしていない ・育成計画などの作成はしていない ・毎年目標等の自己計画を作成している ・目標シートがあり、細かく評価しやすいよう目標を掲げている ・毎年個人の目標設定を行っているが、それが育成計画にはなっていない。面談等もない 					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	1	7	4	<p>・コロナ禍にて開催はむずかしかったが資料配布はなされていた。専門職の研修は一部受講されている。</p> <p>・日常業務以外で研修を受ける機会の確保に向けた調整をお願いします。</p>	<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの為、他部署との研修は行われていない ・夜勤のためその時間がない ・コロナの為、研修は行っていない ・コロナがあり、出来ていない ・コロナ禍のため自粛 ・コロナの時期でもあり、日常業務外での確保は難しかった ・専門職の研修を一部受けている ・日常の業務が多忙にて、その時間を確保 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		できていない ・コロナ禍ということもあり、職員研修は用紙を 配布するだけのものになっている					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	3	10	2	0	<p>・申し送りノートの活用、日常の会話から情報共有がなされて全職員への周知が行われている。さらに都度カンファレンスを開きケース検討について話し合っている。</p> <p>ノートのみでは伝わらない事もあるので職員間の情報共有は必要ではないか。</p> <p>・引き続き、ミーティングや連絡ノートの活用にて情報共有を図っていただきたいです。</p>	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・新規の利用者等の情報はカルテにて共有できている</p> <p>・申し送りや普段の会話等で情報が共有されている</p> <p>・利用者の状態・状況に変化等あれば、看護師は看護師で話し合い、介護に対しては、介護士も一緒に話し合う</p> <p>・定期的なカンファレンスがないのが現状、スタッフの勤務時間が細かく、違いがあるので難しい</p> <p>申し送りノートで情報共有</p> <p>・申し送りノートを活用し、情報の共有につとめている</p> <p>・申し送りノート、各担当など、毎日のように情報を共有している</p> <p>・その都度申し送りノートやコミュニケーションにより共有ができています。</p> <p>定期的なカンファレンスが短時間でもできればなお良いと思う</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・その都度カンファレンスを開き、ケースについて話し合っている ・必要時、迅速にミーティングを行い、決定事項を申し送りノートにて周知している。 ・家族からの要望はその日のうちにミーティングで決定する。決定したことは、ケアマネージャーから家族へ伝える。 ・その日の勤務者には口頭で伝え、申し送りノートも活用し、全職員への周知を行う ・カンファレンス等の情報共有の為の時間はない為、カルテや申し送り等で情報収集するが、十分ではない。職員間で情報量に差がある 					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	2	5	5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員からは感謝の意が述べられている。以後も心温まるサービス提供に努めて頂きたい。 ・運営推進会議での要望等に関わらず、役職員以外への情報伝達ラインの再確認をお願いします。 	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・議事録を見て、要望助言等を確認して、毎日の介護業務に活かしている ・参加していないためできていない ・責任者がその都度会議内容を伝え、改善を検討する ・運営推進会議の内容がわからない 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くこと ができる就業環境の整備に 努めている	3	8	2	0	<p>・スタッフ間の信頼関係の下、人間関係が保たれ、関係性が良好な就業環境が整われている。</p> <p>・職員の体と心の健康第一で引き続き取り組んでいきたいです。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間の人間関係は保たれている ・希望休が希望通りとれない ・職員が楽しく働ける雰囲気を作るようにはしている ・職員個々の環境をふまえて、勤務シフトなど考慮してある ・職員のことを考え、環境づくりが出来ている ・コロナ禍・スタッフ不足で体力的負担などあるが、なるべく減らすよう工夫されていると思う ・病欠・私用等配慮していただけている ・職員からの要望を取り入れてくれる職場ではあるが、人員不足であるがゆえに負担を強いられる職員がいることも事実である ・職員間の関係性が良好 ・プライベートに配慮した勤務日程となっている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている	2	10	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りノートを活用、スタッフ 間での情報共有を以後も継続し て、利用者の体調の変化等、生 命に関わる事もあるので、きめ 細やかな情報共有、他職種との 連携等、迅速な対応を継続して いってほしい。 ・サービス提供にあたり、大変重 要なことと認識します。是非、把 握漏れのないようお願いいた します。 	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・申し送りカルテにて共有している ・申し送りや業務の間に話し合いをするように している ・利用者の変化はスタッフ間で話し合いをして いる ・情報共有のため、申し送りノートを活用して いる ・ケアマネージャーからの情報を常に共有し、 出来るだけ窓口を一つにしている ・職員間でコミュニケーションをとり、共有をす るよう努めている ・申し送りにて共有できている ・ケアマネージャーが情報を集約し、申し送り ノートに掲示する ・毎朝、申し送りを確認して利用者情報の変 更点等の情報収集をしている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	10	1	0	<p>・ヒヤリハットは、事前の対策と危険の認識を深める事で、重大な事故を未然に防ぐ事が出来る安全活動の一つである事を認識して、ヒヤリハット確認対策をお願いする。</p> <p>交通安全の観点から、全車両へ事故マニュアルを乗せて事故時の対応に備えている。コロナ集団感染時には、感染予防対策を保健所の指導の下、講じて拡大を防いだ。</p> <p>・引き続き、個人情報の保護や交通事故、誤薬の事故防止に努めていただきたいです。事故後の経過、対応の振り返りも大事ですが、今後はヒヤリハットの報告もミーティング等での追加をご検討されてはどうか。</p>	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内服時のダブルチェック、転倒予防。2人対応で行っている ・事故報告書を作成し、同じような事故が起こるのを防止している ・事故マニュアルは全車に乗せてある。利用者に対しては何かあったら、すぐ上司に報告し、対応される ・事故・転倒などあった時は、対策を考えてくり返さない様に努力している ・常にどうやったら安全に行われるかを一番に考えている ・ヒヤリハットによる具体策など、その都度対応法をよりよくするよう更新されている ・二重のチェック体制を行い、安全に努めている ・コロナの集団感染時も感染予防対策を保健所の指導の下に行い、感染拡大を防いだ ・送迎車の定期点検、不具合時の報告、報告後の対応ができている ・事故発生時、報告書は作成されるが、共有はされない 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	4	6	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 定期的訓練の実施、そのマニュアル作成、緊急時の利用者情報は最新のものの共有がなされている。さらに大規模災害想定のマニュアル作成はお願いしたい。 緊急時の体制は構築され、機能しているとのことですので引き続き取り組んで頂ければと思います。マニュアルの実践共有をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早送りや訪問にて対応している ・連絡先リストの作成により、情報が速やかに伝わる体制にしている ・定期的に訓練し、マニュアルが作ってある ・訓練を行い、スタッフ統一が出来ている ・緊急時の利用者情報は最新のものを共有できるように常に心がけている ・具体的な対応方針は共有されていない ・連絡を行い、利用時間をずらすなど対応している ・台風時の通所利用者への対応、在宅酸素療法に対する充電器の準備など ・災害発生時の対応について把握できていない。大規模地震等を想定したマニュアルの作成と訓練があればと思う 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	3	5	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の生活を、多職種の視点から考える事で、本人・家族、本人を取り巻く環境等より情報収集を行い、その方のニーズに寄り添った包括的に支援を継続して頂きたい。 ・在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等について、職員間で共通認識を持つ努力が必要と感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・訪問時、体調の悪い利用者がいた時は、看護師が訪問し、家族に報告している ・家族から利用者の在宅での情報を提供してもらうなどして、24時間の暮らし全体を理解することに努めている ・24時間のアセスメントは出来ている ・ケアマネージャー、利用者家族からの情報を常に共有している。アセスメントには常に目を通す ・暮らしに着目したアセスメントはスタッフ間での情報共有しながら行われている ・定期的なアセスメントを行い、職員で自宅での生活の様子等の情報の共有を行っている ・訪問看護時、ご家族の思いや要望等を傾聴し、サービス提供に反映されている ・利用者の生活を多職種の視点から考えることで、その方の生活に必要な支援が出来ていると思う 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	3	8	2	0	<p>・24時間体制で介護、看護の両職種との連携が密にとれることが看護小規模多機能型居宅介護のメリットと思われる。</p> <p>・看護職と介護職が情報共有しないと事故につながりかねないので、現状を続けてほしいと思います。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	2	9	3	1	<p>・コロナ禍感染拡大状況の下、本人家族のニーズに沿った支援情報共有は苦慮されていると思われる。そういった中で、本人の声を聴き、家族とも話し合いケアマネージャーを通して、目標達成に協力されている。</p> <p>・ご家族が安心して利用させられるように努力されていると感じました。</p>	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>・家族や利用者から希望が聞かれた際には、その都度検討を行い、ケアに活かすと共に、ケアプランにも反映されているのだと思う</p>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	2	11	1	0	<p>・多職種と連携を取り情報を共有、並びに日常生活からの利用者の能力を把握して、安全な範囲内で能力を活用できるように考えながら支援をされている。</p> <p>・介護と看護の観点から機能低下させない努力を感じました。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>・介護と看護の双方からの意見を出して、利用者の能力を高める</p> <p>・スタッフ間で利用者の機能維持について話し合いをしている</p> <p>・理学療法士と情報を共有し、協力する</p> <p>・できる限り、ケアプランに反映できるよう作成を行っている</p> <p>・体調観察や食事、排泄チェックを行い、日々の変化に気づき対応ができるようにしている</p> <p>・日常生活から利用者の能力を把握し、安全の範囲内で能力を活用できるように考えながら支援を行っている</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	4	9	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種と連携リスク管理を踏まえてケアプラン作成を行う。リスク管理の取り組みは職員間においても評価が高いという事なので今後も継続して取り組んでもらいたい。 ・リスク管理が十分されていると感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常に変化がみられたら、上司、看護師に報告している ・看護職を中心として、利用者の今後の状況の変化を予測して対応を考える ・上司、担当ケアマネージャーと話し合いをしてリスク管理を行っている ・看護師と情報を共有し、協力する ・リスク管理を踏まえ、ケアプランの作成を行っている ・嚥下障害のある利用者への食事介助は、「食べさせてほしい」という家族の要望はあっても、利用者の状況(嚥下状態、覚醒状態など)を重視している ・今後見込まれる状態変化を予想しながらケア内容や福祉用具の使用等を検討している 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	1	9	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・介護看護が連携をして、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている。変化時は話し合いの下、ケアに反映をしている。また、ケアで気付いたことは多職種で内容の検討をしている。利用者のニーズに沿ったケアがなされるのではないか。 ・現状を維持してほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況をスタッフ間で話し、ケアマネージャーに伝えている ・介護と看護が連携して、利用者の状況を把握して、計画への反映が行われている ・利用者の変化を把握したら、話し合いをしてケアに反映している ・本人に合ったニーズかどうか、スタッフとの話し合いのもと、行われている ・計画に反映されるような情報の共有を行っている ・定期的にあセスメントを行い、ケアプランの更新を行っている ・ケアを行う中で気づいた点などあれば、その都度報告し、多職種で内容を検討している 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	9	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問による家族を含めた居宅での生活状況変化を継続的に把握されていると思われる。 ・自宅での様子を確認し家庭に合った介護計画をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	3	7	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時や退院時などに限らず、主治医との連携により情報共有が出来ているのではないかな。 ・多職種の方との情報共有はとても大事だと思います。ぜひ皆さんが良くできていると思えるように努力していただきたいと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
		<ul style="list-style-type: none"> ・退院時等にはカンファレンスへの参加を行い、情報の共有を行っている ・受診の同行時に看護師により、状態報告することができる ・訪問看護報告書の提出により、状態報告ができています ・受診時には状況に応じて看護師が付き添い、必要な情報共有がなされている 						
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供								
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供								
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	3	9	0	1	<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の異常に気づいたら、看護師に報告し、対応している ・お互い話し合いや申し送りをして、情報を共有して、利用者へサービスを提供している ・業務を分け仕事にあたっている ・それぞれの役割に応じた情報共有ができています ・それぞれの業務の状況に応じ、協力しながら行っている ・専門性を活かした役割分担を行っている ・介護職の人員が少なく、特定の者がほとんどの役割を担っている ・専門性を活かしつつ、その場の状況に応じて協力しながら業務を行うことができています 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時の状況に合わせて介護・看護がフォローしあったり、協働・連携を取りながら、柔軟な役割分担が出来ているのではないかと。 ・専門性を活かし協力しながら業務遂行されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	3	10	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送り、ミーティング、連絡ノートの活用により多職種間の連携が図れているのではないかと。 ・職員全体のミーティングは大事だと思うので、全体ミーティングでの情報共有をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	2	8	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の様子に変化がある場合、適切な指示提案がなされている。新規利用者については疾病、身体機能等の情報や主治医からの指示等申し送りにて共有している ・病状等についての勉強会の場を設ける事に関する取組みはどうなのか。 ・看護師からの情報提供は特に必要と思われ、今後も力を入れて頂きたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど申し送りノートにて伝達している ・新規利用者の疾病、身体機能等の情報や受診時受けた医師からの指示等を申し送り等で情報共有出来ている 					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	9	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族双方へ説明はなされているが、認知症の方の理解に関しては、どのくらい理解されているのか不明な場合があるので家族に理解を求めている。 ・利用者等からの同意を頂かないとサービスに繋がらないため、今後も分かりやすい説明等を行い、利用者又は家族の同意を得ることが必要と思われます。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解できる利用者には説明できている ・利用者には認知症の方もいるので、どのくらい理解されているか不明の場合もあるので、家族に理解してもらっている ・常に理解を深めている ・必要時行っているが、十分ではない ・契約時や定期的に説明を行い、理解を得ている ・利用開始時や利用内容に変更がある場合は、ケアマネージャーが中心となって説明を行っている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	0	10	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用日や休みを目に付くところに記したりパンフレットを作成して利用者への伝達の工夫がなされている。説明内容によっては、適する職種が説明助言をしている。利用者家族双方へ説明実施がなされていて家族が理解されている。 ・ご本人、ご家族の理解を得て不安軽減に継続し努めてほしいです。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用日や休みを黒板に毎日書く様にして利用者に分かりやすくしている ・利用者と家族の双方に説明しており、利用者が良く理解されなくても家族が理解されている ・利用者へ分かりやすく説明することは難しい ・ケアマネージャーが行っている ・ケアマネージャーや訪問スタッフからその都度説明を行い、理解を深めていただく ・定期的に見直しを行い、留意すべき点等の説明を行い、理解を得ている ・在宅での過ごし方についてパンフレットを作成したり、利用者に伝わりやすいような伝達方法を提案・実行する ・説明する内容によって、適する職種がケアの方法等について、説明や助言等を行っている。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	8	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関係に関しては、看護師より説明を実施。看護師が中心となり、医療的手技の伝達を行い、必要に応じて主治医と情報交換を行い、理解を得ている。 ・医療処置はご家族も不安が大きいと思われるので、その都度説明を行い不安軽減に努めてほしいです。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	3	6	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの希望・意向を聞く機会を持ち、サービス提供へ反映している。 ・ご本人・ご家族と密接に関わり希望にそえるよう心がけてあり継続しておこなってほしいです。 	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの希望・要望を取り入れ、サービス提供を行っている ・希望や意向に沿うことが出来るよう多職種で話し合いながらケアを行っている 					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	1	8	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況変化を予め予後予測して、その対応策を企てている。また、利用者家族と話し合い、意向を確認しながら、今後の生活方針について検討している。 ・今後も将来的に起こりうる様々なリスク対応を願う。 ・将来起こりうるリスクを想定した検討策を利用者と共有できおり、担当者とも情報交換ができていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接家族との対応はないので、ケアマネージャー、申し送りで共有できている ・利用者の状況の変化を予め予想して、その対応をたてている ・ケアマネージャー、家族と話し合い情報を共有している ・リスクが想定された場合は早めに家族等に連絡しているが、共有できているかはわからない ・利用者・家族と話し合い、実際に在宅で過ごすことができるか試行し、相談、共有している ・利用者やご家族の意向を確認しながら、今後の生活方針等について検討している 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおそできている	あまりできていない	全くできていない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	5	1	1	<p>・専門職による丁寧な説明、段階に応じた記録を残す。連絡ノート、記録にて情報共有されている。</p> <p>・ご家族やスタッフへのケアも配慮をお願いします。</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
<p>2. 多機関・多職種との連携</p> <p>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</p> <p>① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行</p>							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	5	6	2	0	<p>・医療との連携、情報共有が出来ている。退院時の対応は経験不足との事であるが、退院前カンファレンスに参加し、円滑な利用開始に努めてほしい。</p> <p>・利用者が円滑な在宅生活を送れるよう継続した支援をお願いします。</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・看取りの状態に入る時は、利用者家族と話し合い、その結果を記録として残している</p> <p>・家族へ説明し、記録として残している</p> <p>・責任者が行い、情報を共有している</p> <p>・様々な対応を記録に残すようにしているが、終末期ケアの対応は経験不足である</p> <p>・看取り期における経過の説明、記録されている</p> <p>・早期より、状態の変化を細かく家族へお伝えし、記録を必ず行っている</p> <p>・主治医の意見を聞きながら、本人・家族と共通の認識のなか看取りを行っている</p>							
<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・病院や施設との情報共有ができている</p> <p>・病院と連携や情報は共有している</p> <p>・看護師を通して、情報の共有を行う</p> <p>・受診に付き添い情報共有を行うよう努力しているが、退院時の対応は経験不足である</p>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		<ul style="list-style-type: none"> ・退院前にはカンファレンスへの参加を行い、状態の把握をし、在宅生活への移行を行っている ・退院前の状況を必ず確認する ・退院後の生活について家族と話し合い、サービス内容を検討する ・退院前に実際に様子を見に伺うことで、円滑な利用開始に努めている 					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	2	10	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応は多職種連携を図り対応継続して欲しい。 ・緊急時の対応について、職員間で共有し主治医にも相談し共有できており家族との話し合いもシートに記録してあり十分にできていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師との共有はできている ・緊急時の対応を主治医と相談・共有することについては、すべての利用者とはまだはいかないかもしれない ・利用者の状態に変化があれば、随時、医師と話しをしている ・看護師やケアマネージャーを通して、情報の共有を行う ・受診に付き添い、様々な方向からのアセスメントを報告するようにしている ・緊急時の対応方針について、本人・家族へ予め確認を行っている ・すべての利用者ではない。必要性のある利用者は対応を検討、医師との連携を図っている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の既往歴等から予想される事態に関しては、対応を主治医と話し合うことができている 					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	2	8	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間緊急時に対応の体制はできているので、リスクのある利用者の休日の対応について検討をお願いします。 ・十分にできていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけの病院を決めておいて、急変時にすぐに搬送することができる ・夜間の急変時の対応は体制ができている ・他職種とすぐに連携が取れるようにしている ・事業所としては対応できるようになっているが、私個人としての対応はできていない ・予め急変が予測される前に対応を行っている ・かかりつけ医の受け入れ拒否がある ・夜間の急変時は、救急要請し、救急隊員にお任せすることが多い ・主治医から必要に応じて電話や受診等で指示を受けることが出来ている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	1	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・包括ケアシステム上、連携は重要である。 ・運営推進会議において情報共有ができています。継続して積極的に地域や職員等との情報共有をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるといった方法での情報発信が、迅速に行われている	3	4	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録は机上にありいつでも見られる。申し送りノートによる情報共有がなされている。 ・情報発信が迅速に行われていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができるといった方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		<p>・運営推進会議の内容はあまり情報発信されていないと思う</p>					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	0	2	5	5	<p>・コロナ禍にて自粛中。</p> <p>・引き続き、ホームページ等で情報発信等をお願いします。</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</p>
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	—	—	—	—	<p>・コメントなし</p> <p>・なし</p>	<p>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整ってお り、積極的に受け入れている	0	1	5	7	<ul style="list-style-type: none"> ・痰吸引によるリスクを配慮して、積極的には行わず、必要時は提携病院と連携している。 ・施設の受け入可否の認識にバラつきがあるようです。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整ってお り、積極的に受け入れている	0	5	2	5	<ul style="list-style-type: none"> ・対応はない。 ・施設の受け入可否の認識にバラつきがあるようです。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	6	6	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間体制で看取り期支援体制を整えて、主治医と連携を取り、家族の要望により相対性が整っている。看多機能は支えになると思われる。 ・利用者の状況に応じて受け入れ体制が出来ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	1	5	2	5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの役割は高い事を理解されていると思われる。 ・内容等の理解について理解度を深める研修等の取り組みを計画し、職員各々が果たすべき役割を明確にすることが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」 ✓

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	4	7	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・対象地域内でのサービス提供は成されていると思われる。 ・積極的に地域に密着したサービス提供が行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	4	2	6	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にて提案の工夫を強いられる。 ・運営推進会議等で情報交換は行われていますが、地域関係者に対する課題や改善策の提案等への取り組みは難しいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	0	5	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での取組に苦慮されている中、家族に対しての取組はされていると思われる。 ・家族への介護方法の助言等は取り組まれているが今後は住民との関りを目的とした取り組みが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自宅で暮らせるよう環境整備を行っている ・家族に対してはそのような取り組みをしているが、近隣住民に対してはしていない ・家族や近隣との接点がなく、出来ていない ・家族に対しては関わりをもっているが、近隣の方までではできていない ・家族・本人ができる事を把握し、協力をお願いしている ・もっと関わって欲しいと思う家族へのアプローチが難しい。時間がたてばたつ程、介護力を引き出せなくなってしまう。今後、新規で入ってこられる方については、家族の要望を聞き入れるだけでなく、利用者がどうして欲しいか、三者間が納得できるようなプランでサービス提供できればと思う ・利用者家族に対して、ケア内容の提案や医療的処置の説明等を行うことができています 					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 3</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 5</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 1</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない 1</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に沿った対応を行っている ・色々なニーズに対して良いサービスを行っている ・通いの利用者はプラン達成されている ・利用者の心身や環境に変化があれば、その都度サービス内容を検討、変更し対応できている ・申し送りノートを見て、横のつながりですばやく対応されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成評価がスタッフ間でも高い方。今後も目標体制に向けて取組んでほしい。 ・計画目標については、利用者ごとにほぼ達成されています。 	<p>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 4</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 5</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 1</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない 1</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師との連携により得られている ・頑張っている ・ひまわりに来ると安心します、などの声がきかれている ・医療的ニーズが高い方にも安心して生活していただけるよう、看護師が中心となってサービス内容を計画、実施できている ・すばやく対応されている 	<p>・在宅での療養生活が継続できるように、医療との連携で、利用者、家族の不安の軽減に繋がるよう継続を望む。</p> <p>・利用者に応じたサービス提供により在宅での療養生活の継続に対する安心感が得られています。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 3</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 5</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 0</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない 1</p> <p>5. 看取りの希望者はいない 2</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り段階に近づいている、またはその様な状態に入った場合、家族と連絡を密に出来ており、安心感を与えられていると思われる ・在宅での看取り希望はいない ・管理者が説明を行っている ・できるだけ家族の思いに寄り添う看取りをスタッフで協力しながら行っている ・看取りは病院でと言われる家族が多い ・主治医や家族と密に連絡を取り合い、情報共有を行うことで、安心して過ごしていただけるよう努めている 	<p>・日々、変化する状況やご家族の精神的支えとなられるように心がけられ温かいケアの継続を望む。</p> <p>・利用者や家族に寄り添った支援に心がけ実践されています。</p>	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>